

令和2年度 県立土浦湖北高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	・文武両道を柱とする活力ある進学校 ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践をととして、地域・社会に貢献する人材育成 ・信頼と魅力あふれる開かれた学校				
	昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
	本校は文武両道を柱とする活力ある学校づくりに取り組んでいる。 平成31年度は、部活動において、例年通り陸上競技部、少林寺拳法部が関東・全国大会に出場を果たした。剣道部も男女で関東大会出場を果たし、茨城国体の選手に男子一名が選出され全国制覇に貢献した。硬式野球部を始め、その他の部活動も積極的な活動を行っている。茨城国体には陸上部も選手を送り出している。 進学面においては「一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業」や「いばらき学力向上推進事業」を受けて学力向上を主眼とする取り組みを続けた結果、茨城大学をはじめとする国公立大学に2名合格し、私立大学に多数の合格者を出した。公務員試験でも前年を上回る成果を上げることができた。引き続き進路意識の高揚と学力の向上を図り、進学校として大学進学率をさらに高めていく必要がある。 生活面においては、服装・頭髪の指導を継続的に行っている。自転車乗車マナー等の指導をさらに徹底していく必要があるので、豊かな心の育成と併せて継続した指導が必要である。 一方、依存心が強く「自分で決められない」生徒も多い。感謝の気持ちを育み、自立した他人から頼りにされる生徒の育成が課題である。		学び続ける態度の育成と学力向上	① 学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ、家庭学習「0」をなくす。 ② わかる授業を目指し、言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実践を継続し、授業改善に取り組む。 ③ 年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。	B
	自分で決められる生徒の育成を目指し、それを支援するための個に応じた進路指導の充実		④ 面談指導を重ね、生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑤ 進路学習、就業体験を通して、望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑥ 進路ガイダンス・大学見学会・外部模試の活用などから、入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。 ⑦ 課外等をととして粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。	B	
	規範意識及び安全に関する態度の育成		⑧ ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑨ 登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。 ⑩ スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑪ 家庭・地域社会及び関係機関と連携し、情報の共有を図り、事故の未然防止に努力する。	B	
	キャリアパスポートを活用し、素直に感謝する気持ちを育み、豊かな人間性・社会性を身に付けさせるなど、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成		⑫ ホームルーム活動を充実させ、認め合い、励まし合う生徒を育む。その中で、三学年統一したシステムを使用し、自分の特別活動及びホームルーム活動、加えて各教科の学習状況やキャリアを見直し振り返ることで、自身の変容や成長を自己評価させる。 ⑬ 特別活動・部活動を活性化し、学校行事・ボランティア活動の充実に努め、湖北生としての自信と誇りを持った生徒の育成を目指す。 ⑭ 道徳・生徒相談を充実し、相手の気持ちになって考え、命の大切さがわかる生徒を育成し、いじめのない安心な学校作りをする。	B	
信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進		⑮ 保護者、地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実に努める。 ⑯ 学校Webページ、県のフォトニュース、進路ニュース、学年通信等を活用して、積極的な情報提供に努める。 ⑰ 教育活動を公開するとともに、外部評価や広聴活動により取組の改善に努める。	B		
教職員は服務規律を遵守し、働き方改革を推進		⑱ 日頃のコミュニケーション等を通して教職員の良好な関係を作り、学校諸課題に「チーム」として対応する組織づくりをさらに進める。 ⑲ ICTの活用により、職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。 ⑳ コンプライアンス意識を持って行動する。 ㉑ PDCAサイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め、働き方改革を推進する。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題		
教科指導		あきらめずに学習に取り組ませ、学力の向上を図る。	授業の工夫・改善とともに、家庭学習時間の確保に努める。	①	B	ICTを活用した授業実践を各職員が共有し、授業改善を進め生徒の学力向上につなげていく。		
			更なる授業の充実を図るため、授業を公開するなど授業力向上に向けた研修に努める。	②③	B			
			ICTの活用により、成績処理や教材準備の効率化を図る。	⑱	B			
教 科	国語	基礎学力の向上を図る	小テスト等で、生徒の学習理解度を把握し、不十分な生徒には補習や追試を実施する。	①②	B	言語活動をより積極的に取り入れて「主体的・対話的で深い学び」を促進することや、従来以上にICTを活用することなど、今後の教育活動で重要と考えられる点に関してさらに探究していくことが重要である。そのためにも、教科内での連携を重視し、意見交換や情報共有を活発に行っていく。		
		家庭学習習慣の定着に努める	授業で不十分な部分を補うために、課題プリント及び週末課題を用意し、計画的に取り組ませる。	①	A			
		授業の理解、定着を図る	ノート点検や机間指導を積極的に行い、生徒の理解度を確認するとともに、学習の定着を図る。	①②	B			
			言語活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを意識した育む授業実践に努める。	②	B			
		国語力の向上	年間3回の漢字検定および年間2回の文章検定の校内実施により、国語力の向上と定着を図る。	②	B			
		自分の考えを文章に表現する力を付けさせる	小論文を授業に取り入れ、文章を実際に書かせる中で、自分の考えを育て、意見とその根拠を筋道立てて述べる力を身に付けさせる。	②	B			
		発展的な学力の育成を図る	課外、習熟度別学習、校外模試の活用など、生徒の能力や進路目標に応じた学習内容・学習形態を工夫することによって、発展的な学力の育成を図る。	①	B			
		教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	日頃のコミュニケーション等を通して教科内での連携を深め、相互に協力しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材準備や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱⑲	B			
	地理歴史	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。	②	B	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、作業的・体験的な授業の改善、探求学習の導入やICT活用の授業などが求められており、より担当科目教師間の連携強化や授業展開の工夫などを図っていく。ICTを活用した小テストを行い、知識の定着を目指していく。		
		家庭学習習慣の定着を図る	長期休業期間中の宿題や課題プリントを定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	①	A			
		生徒の意欲を喚起する授業への改善に努める	eポートフォリオで授業での学びや活動を記録し、今後の学びや活動につなげていく。	②	B			
			教科担当者同士で授業を公開し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。	②③	B			
			各種研究会に積極的に参加し、教科会で報告するとともに自己研鑽に努める。	②	A			
		教科内での連携を深め、業務の効率化を図る	教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱⑲	B			
		公民	基礎学力の向上を図る	学習内容の定着を図るため、授業終了後や放課後に質問の時間を設ける。	②		B	公民科の科目は3学年に設定され、進路や実社会への参加に直結しているので、人間としての在り方・生き方(法やルール、政治的教養等)を育成・習得するため、より実践的・体験的な活動を推進、導入していく。ICTを活用した小テストを行い、知識の定着を目指していく。
			家庭学習習慣の定着を図る	定期検査や課題テスト、各単元の確認テスト等を利用して、学習の理解度を把握する。	②		A	
	生徒の意欲を喚起する授業の改善に努める		長期休業期間中の宿題や課題プリント等を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	①	A			
			実物教材やプレゼンテーションソフトなどの教材を工夫し、生徒の授業への意欲を喚起する。	②	A			
			教科担当者同士で相互に授業を参観し、教科内で授業内容・方法の改善に努める。	②③	B			
			各種研究会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	②	B			
	教科内での連携を深め、業務の効率化を図る		教科会や相互授業参観等を通して連携を深め、お互いに協力や助言しやすい関係作りに努める。ICTを活用し、教材研究や成績処理において有益な点を共有することで、業務の効率化を図る。	⑱⑲	B			
	数 学		意欲的に授業に臨ませる	生徒が意欲的に取り組む授業の実践方法を研究し、定期的に教科会で協議・報告し合う。	②	B	生徒に活動や話し合いをさせる方向にという流れにあった中、コロナ禍において旧体系の一斉授業が主となってしまった。授業でのICT活用に関しては、授業実践を教員間で共有していきたい。	
			授業担当者間で相互に授業観察を行い、生徒の意欲を引き出す授業展開ができているか研究・協議を続けてい	②⑱	B			
			ICTを活用し、生徒の授業の内容理解や意欲の向上につなげる。	⑲	B			
年間授業計画に沿った授業を展開		定期的に授業担当者間で年間学習指導計画の見直しを行い、次年度に生かせるよう検討・報告する。	③⑱	B				
家庭学習習慣の定着を図る		傍用問題集等の課題を提出させ点検を行い、家庭学習の習慣付けに努める。	①	A				
		定期的に確認小テスト等を実施し、計画的・継続的な反復学習に取り組ませ、自力解法力を身に付けさせる。	①	B				
理 科	一人一人の自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図る	課題や小テストを利用して学習の理解度を確認し、家庭学習の習慣が身に付くよう指導する。	①	B	大多数の生徒で家庭学習量が少なく、家庭学習の習慣付けが必要である。また、実験・観察の充実を目指していく。			
		生徒の授業への取り組みを評価し、その上で理解が不十分な生徒には、補習などを実施し基礎学力の定着を図	①②	A				
		実験・観察を積極的に取り入れ、その結果をまとめさせることで思考力や表現力を養う。	②	B				
	生徒の実態に応じた教育課程の編成に取り組む	各自で指導法の改善に努めるとともに、科内で話し合いを持ち科全体で指導法の工夫・改善を進める。	②⑱	B				
		年度当初にシラバスを提示するとともに、生徒の実態にあった授業内容となるようその改善に努める。	③	A				

教科指導		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	保健体育	・生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てる	生徒の実態や施設、クラス数等の実情に応じた年間指導計画を作成する。	①②③ B	生徒たちが積極的に活動し、交流や協調性を高めることができる内容を意識して取り組むことが必要である。水泳の授業を廃止し、体力テストを授業の中で行うことにより、生徒一人一人の体力の把握していく。また、一つ一つの種目に丁寧に組み入れることによる記録のさらなる向上を目指す。近年の保健に関する問題について考えさせる内容を授業の中に入れていくことが必要である。
			運動領域は中学校との関連を図り、学年進行に応じた選択ときめ細かな指導を行う。	①②③ A	
			安全に留意して運動実践し、3年間で生涯通しての「マイスポーツ」の獲得を目指す。	① B	
			運動を通して運営、仲間との交流、協調性、ルールの遵守、マナーなど社会性を育む。	⑧ B	
		・適切な生活習慣を身に付け、自己の健康を管理し改善していく能力を培う	実技指導研修会等に積極的に参加し、資質の向上に努める。	①② B	
			ロールプレイやディベートを用い、健康なライフスタイルを確立する観点に立った授業を展開する。	② B	
			飲酒、喫煙、薬物乱用、性感染症等生徒を取り巻く身近な問題は特に重点的に指導する。	①②③ B	
			交通安全の指導では、交通ルールを遵守することが自らを守ることを理解させる。	⑨ B	
		・心と体を一体として捉え、体育と保健を関連させた指導を目指す	豊かな人生「クオリティーオブライフ」を実践できる資質を育む。	⑫ B	
			心と体を一体化して捉えて自分や他人の体調に気付き、体の調子を整える能力を育む。	①② B	
			健康の保持増進と運動実践の重要性を関連づけて理解させる。	③ B	
			運動によるストレスへの対処や運動処方が大きく健康に貢献していることを理解させる。	③ B	
	芸術	興味・関心を持ち、意欲的に臨めるよう努める	教室の美化をはじめ、芸術的活動をするにふさわしい環境の整備をする。	② B	自己の内面と向き合う題材を取り入れ、表現の多様性と理解が進むように努め、表現する喜びを実感し、豊かな感性を培うことが重要である。時代に翻弄されない個々の特性に応じた芸術観を育成していけるよう、目標を明確にし来年度につなげていきたい。
			自らの目標を立てさせ、目標を達成するために努力できるよう援助する。	②③ B	
		基礎技能の向上を図る	机間指導をしっかり行い、技術・理解度の不十分な生徒を把握し、個別指導を行う。	② A	
			生徒自身の自己評価と相互評価を効果的にさせ、向上心を育成する。	②③ B	
		芸術を愛する心情を育て、表現する喜びを実感する授業への改善に努める	きめ細かな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次時の授業改善に活かす。	② A	
			生徒の感性を高めるため、よりよいものを提供できるよう、担当者自身も積極的に研修会等に参加し、自己研鑽に	②⑫ B	
			音楽・美術・書道と科目は異なるが、芸術家として相互に高めあうために授業を参観しあい、研究協議すると共に	② B	
			芸術教育を通して生徒の心に触れ、豊かな感性を培えるよう、望ましい人間関係の構築に努める。	② B	
	外国語	充実した授業を展開する	目標に沿った授業プランを毎時間示し、日々の授業の評価を丹念に行う。	②③ A	教科内外の相互授業参観を行い、指導法を共有していく。コロナ禍における生徒の協働学習のより効果的な方法を検討する。電子機器やタブレットなどのICT機器の効果的な使用を模索していく。
			授業終了後に指導内容を点検し、改善点を明らかにし、次時間に活かす。	②⑫⑮ A	
		基礎力の向上を図る	小テスト等を利用して理解度を把握し、不十分な場合は補習や課題等を課す。	① B	
			授業目標に沿ったきめ細やかな指導を行い、成果と課題を明確にし、作問に活かす。	②③ A	
		家庭学習習慣の定着に努める	学習内容の定着のため、休み時間や放課後に質問の時間を設ける。	① B	
			英検準2級・2級取得を目標に基礎力を充実させる。	①⑥ A	
		英語がわかる喜びを実感する授業への改善、アクティブラーニング手法を取り入れた授業づくりに努める	家庭学習の定着を推進する方法について探求し、評価に反映させる。	① A	
			担当者間で相互に授業を公開し、授業内容や方法等について科内で協議する。	②⑫ B	
			生徒が対話や協働学習を通して学び、課題解決能力が育まれるような授業が展開できるよう、新しい指導法や授業改善法について、教員間で研修や情報共有を図る。	②⑫ B	
			ALTを積極的に活用するとともに、自らも交流に努めることで自己のコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解の態度の手本となる。	② B	
	家庭	生徒の実態に応じた指導を工夫する	高校生活や青年期の課題を自覚させ、目標の実現に向け自ら学ぼうと思えるような指導方法の改善に努める。	② B	学習内容が生活に生かされているかをどのように確認し、どのように評価することが適切であるか検討していく。アンケートをICTを活用して行うなど、更なるICTの活用を目指す。
			個々の活動や進歩の状況など、学習状況が把握できるようにし評価の充実に努める。	③ B	
		実験・実習の充実を図る	実践的・体験的な活動を通じて深い学びになるように努める。	② B	
			家庭や地域の生活について課題を見つけ解決する能力を養うために問題解決型の授業の充実に努める。	② B	
		社会変化に対応した授業改善に努める	授業において、ICTの活用や視聴覚教材の活用の充実に努める。	②⑫ A	
			ICTを活用し、教材準備の効率化や業務の効率化を意識し働き方改革を推進する。	⑫⑮ A	
	情報	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用する能力を育成する	情報や情報技術を活用する能力を育成するために、問題解決に関連したデータの収集・分析の授業を実施する。	②⑫ B	授業で学んだ知識を実生活に生かすことができるよう、授業改善を行っていく。
			問題解決能力を育成するために、情報及び情報技術を活用した授業を実施する。	①⑫ B	
		情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する	主体的・対話的で深い学びを実践するために、グループによる問題解決型の授業を実施する。	②③ B	
			情報や情報技術の活用に必要な法規や制度、マナーを身に付けさせるために、情報社会の問題点について考えさせる授業を実施する。	⑧⑩⑭ B	
		業務の効率化を図り働き方改革を推進する	授業の教材準備を効率的に行うため、ICTを活用する。	⑫ A	
			PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、生徒に授業アンケートを実施する。	⑮ A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	特色ある教育課程の編成と運営	学力向上に効果的な教育課程の研究と改善に努める。 ②	A	学校グランドデザイン(GD)のもと、各教科のGDを作成し、目指す生徒像の実現に向けて検証・改善を行いながら、教育活動を行う。考査等の改革や統合型支援システムの有効利用で、さらに業務改善を進めていく。学校生活アンケートの結果を踏まえ(保護者に情報が伝わらない)、広報活動の充実を行う。中学生向け広報活動の強化を行い、魅力を伝えていく。
		観点別評価の方法及び年間指導計画の作成、利用について改善を継続する。 ③	B	
	授業時間の確保	授業時間を確保と、曜日のバランスの工夫をする。 ②	A	
		出張・年休等では振替を行い、授業の確保に努める。 ②	A	
		業務改善を行い、働き方改革を進める。 ⑱⑳	B	
	校内研修の充実	人権研修・アクティブラーニング・コンプライアンス研修において本質的理解に努める。 ②㉑	B	
		研修内容を教員間で共有し、資質能力の向上に努める。 ②	B	
	広報活動の充実	学校案内の充実や、説明会の積極的参加により広報活動に努める。 ⑮⑯⑰	A	
		県のフォトニュース、本校Webページの活用により、広報活動の多様化に努める。 ⑮⑯⑰	B	
		オープンスクールの内容を検討し、中学生や保護者への広報活動の充実を図る。 ⑮⑯⑰	B	
生徒指導	基本的生活習慣の確立	職員のコミュニケーションを通して共通理解を高め、「チームとして」協力して生徒指導にあたる。 ⑧⑬	B	特別指導については11件12名で、コロナウイルスの影響で4月5月と例年より実質的に短い期間であったことを考えると、決して少ない件数ではない。今年度より行っている段階的指導の質的向上を図りながら、基本的生活のルール・マナーを向上させ、落ち着いた学校生活を送らせる指導を継続的に行っていく必要がある。
		登校指導や自転車乗車指導を実施し、交通事故防止に努める。挨拶の励行に努める。 ⑧	A	
		ルールを守り、マナーを向上させ、規範意識を高める。 ⑧	B	
	生徒理解	面談等個別指導の機会を多く設け、生徒理解に努める。 ④⑧	B	
		生徒に対しては声かけや、職員間では生徒についての情報交換を積極的に行う。 ⑧⑬	A	
	交通安全教育の推進	定期的に街頭指導を行い、自転車乗車マナーのチェックを行う。 ⑨	B	
		自転車点検を積極的に行い、安全に対する意識を高める。 ⑨	B	
	安心して学べる学校づくり	学校内、周辺の危険箇所の整備、把握に努め、コンプライアンス意識を持ち、生徒が安全に学校生活を送れるようにする。 ⑨⑳	B	
		PTA、関係諸機関との連絡を密にとり、事故防止に努める。 ⑨⑪	B	
		危機管理、不審者侵入対応マニュアルに基づき、早急に事態収拾に努める。 ⑨⑪	B	
		スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑩	B	
教育相談	教育相談の充実	相談しやすい体制と雰囲気確保に努める。 ⑭	A	校外の研修に積極的に参加し、教育相談のより一層の充実を図ると同時に特別な支援を必要とする生徒の援助にも努めていきたい。
		生徒の悩みの早期発見と情報共有に努め、学年やSCと連携して援助する。 ⑭	A	
	特別支援教育の理解と実践	校内外の研修に積極的に参加し、研修成果を活用する。 ⑭	B	
		特別な支援を必要としている生徒の理解に努め、必要に応じてチーム援助に協力する。 ②④	B	
特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動の活発化(自主性・協調性の育成)	ホームルームの組織や常置委員会を中心に、生活の改善を図らせる。 ⑫	B	学校での活動が大幅に制限された中で当然行事等中止となっており、生徒会役員を中心に対応を対応を考えていった。来年度もこの状況が続く場合、簡単に取りやめるのではなく、文化祭など開催することを前提で進めていきたい。また、「道徳・道徳プラス」に絡めてコロナ禍におけるマナーやボランティア活動なども連携させて企画運営を進められるように考えていきたい。
		生徒会活動を活性化し、より良い学校生活づくりに参画させる。 ⑬	A	
	学校行事の充実(帰属意識・連帯感の涵養)	各種行事(儀式的・文化的・体育的・勤労奉仕的)をバランスよく実施し、集団の一員として協力する態度を養う。 ⑬	B	
		生徒会を中心に、教職員も含め学年を越えた異年齢集団による交流を深め、協力して諸問題を解決させる。 ⑬⑱	A	
	部活動の活性化(体育的・文化的資質の向上)	適切な指導の下、生徒の自主的実践的な活動を充実させる。 ⑫⑬⑭	B	
		応援や壮行会、表彰式などを実施し、意識の高揚を図る。 ⑬	B	
	「豊かな心」の育成	「道徳・道徳プラス」の授業を、実施学年との連携を図りながら充実させる。 ⑭	B	
		生徒会役員を中心に、マナーアップ運動やボランティア活動を積極的に企画・運営すると共に、働き方改革も考えていく。 ⑬⑳	A	
	キャリアパスポートを活用し、様々な学びを、自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	生徒の成長を促す対話的な支援により、自らの学習状況やキャリア形成を見通した自己評価を適切に行わせる。 ⑫⑬⑭	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
進路指導	生徒の実態に即した進路指導の充実に努め、進路意識の高揚を図る	学年進行に伴った適切な進路学習や進路ガイダンス等を行い、生徒の進路意識を高め、一人一人の進路目標を明確にさせる。④⑤⑬	A	B	家庭学習の時間の減少が課題である。生徒個人の進路希望や生活パターンに配慮しつつ、十分な学習時間を確保できるよう働きかけが必要である。また、特別進学クラスの編成と運営について、職員間で検討し共通理解を持って効果的に進めていきたい。
		就業体験学習(インターンシップ)や一日看護体験を行う。⑤	B		
		「進路ニュース」を発行し、進路に関する情報をタイムリーに提供する。⑥⑬	B		
	学習習慣の確立に努め、基礎学力の向上を図る	進路希望調査及び学習実態調査を行い、その結果をもとに各学年・教科での検討を進め適切な対策を取る。①④	A		
		家庭学習を習慣化させ、授業に対する取り組みの改善を図る。①	B		
	国公立大学合格者数の増加と四大進学率の向上を図る	進路希望に応じたコース編成や特編クラスの編成を行う。④⑦	B		
保健厚生	環境整備の励行及び充実	働き方改革を念頭に、各種模擬試験を計画的に実施し、結果を詳細に分析してその情報を共有化する。また、各学年・教科での有効な対策を取る。④⑥⑲	B	B	コロナ禍において未実施のものがあり、次年度以降コロナウイルス対策を含めて対応を工夫していく。エアコン整備・トイレ改修の予算化が実施され、さらに校内リフォーム等の予算化を願い、環境整備に努めたい。
		特進クラスの活性化と課外授業の一層の充実を図る。④⑦⑬	B		
	心身の健康管理及び安全衛生管理の励行、働き方改革の推進	校舎内外・校庭等の美化に努め、学校生活環境の向上を図り、環境美化・衛生に取り組む。⑪	B		
		教室や分担区域等の清掃に自主的・積極的に取り組ませる。⑬	B		
	学校事故の未然防止、及び地域と連携した防災教育の推進	生徒及び教職員の健康状態の把握に努め、健康管理、安全衛生の指導助言を行う。ストレスチェック、性教育講座、救命講習を実施する。⑱	B		
		行事や企画を見直し、合理化に努め、働き方改革を推進する。⑲	B		
図書	生徒の基礎学力向上のため、読書の推進を図る	危機管理、防災、熱中症対策のマニュアルを作成、見直しにより、教職員及び生徒の安全意識の高揚を図る。⑪	A	B	9月に予定していた読書会をコロナウイルス感染拡大防止のため開催することができなかった。安全に開催できるよう検討していきたい。
		地域との連携による防災避難訓練等を計画・実施する。⑪⑰	B		
		生徒・職員の希望図書を購入し、新着図書の紹介を中心に「図書館通信」を発行する。①⑬⑰	A		
	生徒の自主学習を支援するための図書館の充実を図る	校内における読書の推進を図るため、図書委員会主催の読書会を開催する。⑭⑮	B		
		進路指導部との連携を図り、生徒の進路選択に役立つ図書等を充実させる。①⑥⑱	B		
渉外	家庭、地域、学校及び同窓会との連携強化	図書館内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整備する。⑭⑲	B	B	コロナ禍により多くのPTA行事が中止になったが、その連絡はスムーズにできた。来年度は従来通りの活動ができることを期待する。
		生徒の自主学習の場として利用の促進を図るため、授業等で利用する資料を充実させる。①②	B		
	PTA活動の活性化	登校指導、祭礼巡視などの行事を企画し、地域の方々との交流を深める。⑨⑮	B		
		行事を通して、地域の方々との情報交換を積極的に行い、学校運営に生かす。⑬⑮	B		
	保護者への情報の提供	「研修旅行」、「文化祭のバザー」を企画することで、会員相互の理解を深める。⑬⑮	B		
国際交流	国際理解教育	常にコンプライアンス意識をもって行動し、保護者との良好な関係を構築する。⑲	B	B	国際交流の機会を数多く提供していく。
		PTA支部会、広報誌等を通して、本校の教育活動への取り組みを保護者へ広める。⑬	B		
事務	予算の適正な執行	広く世界に目を向け、自国への理解と認識を踏まえて、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を支援する。②	B	B	コロナウイルス感染拡大防止のための予防策及びICT環境整備関係について校内で綿密に打合せをし、迅速に対応していきたい。破損箇所の早期発見、修繕を行い施設の安全管理に努めていく。
	個人情報管理の徹底	多様な文化に関する知識や、国際協力についての理解と認識を深める機会を提供する。②	A		
	施設設備の適正な管理	公金であるとの認識のもと、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。⑬	B		
	窓口等での適切な接遇	仕事で取り扱う職員、生徒の個人情報について情報の漏えい等がないように厳重に管理する。⑲	B		
		定期的に校内巡視等を実施し、危険箇所を早期に発見する。また、危険箇所や修繕箇所については、迅速な対応を行うことにより施設設備の適正な維持管理に努める。⑬	B	B	
		学校の窓口業務及び電話等での対応を、適切かつ丁寧に行う。⑬	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第1学年	基本的な生活習慣を確立させ、礼儀や社会のルールを尊重する心を育成する。また、社会生活における他者への思いやりや助け合う心、規範意識を高める。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。⑧	B	B	コロナ禍のため集会や学校行事を実施することができず、メリハリのある高校生にすることができなかった。進路意識の高揚や生活の切り替えがうまくできなかった。ICTの活用が進んでいるが次年度はさらに活用を推進し、生徒が自ら情報収集や蓄積を行うことができるようにしていきたい。
		挨拶と丁寧な言葉遣いを励行し、社会で求められるマナーを身に付ける。⑧⑨⑭	B		
		手帳を活用することで自己管理能力を向上し、事前準備を行い時間を守る習慣を身に付けさせる。⑧	B		
		教員間のコミュニケーションを密にし、ICTを活用して生徒の情報を共有しながら学年担当者全員が学年全生徒の指導を行う。⑱⑲	B		
	主体的な学習態度を確立させ基礎学力の充実を図り、進路に対する目的意識を持たせる。	授業の大切さを認識させ、予習復習の徹底を図り、基礎学力の向上に努める。①②	B		
		個別面談の充実。生徒の進路希望を把握し、進路に応じた適切な文系理系の選択ができるようにする。また情報収集に努め、的確な情報を提供し進路選択を助ける。④⑤⑥	A		
		教育情報ネットワークやClassiを活用し、学習活動・進路指導の両面で、学びの振り返りを自主的に積極的に行わせ、その後の生徒の活動を向上させる。⑥⑱	B		
		各試験、検定、課外活動に積極的に取り組ませる。⑦⑫⑭	B		
	校内外の活動に積極的に取り組ませ奉仕の心を育成し、集団における自己のあり方を学ばせる。	集団行動の意識を理解させ、協調性を育む。⑬	B		
		高校生としての自覚を持たせ、規律ある行動も求めるとともに、学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組ませる。④⑧⑭	B		
		eポートフォリオを活用して、校内活動・校外活動の両面での振り返りを行わせることにより自己の成長を認識させ、その後の生徒の活動を向上させる。⑫⑬⑲	B		
第2学年	本校を振興させる中核を担う立場としての自覚を促す。その過程で基本的生活習慣の確立と、規範意識の涵養を図る。	服装容姿を整え、校則を遵守させる。丁寧な言葉遣いを奨励する。⑧⑩⑭	A	A	コロナ禍の中、校外活動を十分に行うことが出来なかった点が非常に残念だが、少しでも次年度実施していけるよう工夫を凝らしながら検討していく必要がある。
		登校、始業など、時間を守る習慣を身に付けさせ、活力ある学級集団の形成につなげる。⑧⑨⑫	A		
		社会で求められるマナーを身に付ける。⑩⑪	B		
		生徒に部活動への積極的な参加を促すとともに、学校により良い影響を与えられる生活・学習態度を育成する。⑧⑬	A		
	最終学年を見据え、生徒にとって望ましい進路指導を、早い時期から、具体的に、また、個に応じた形で行うように努める。	個別面談を積極的に実施し、生徒の進路希望を詳細に把握する。①④	A		
		進路に応じた適切な助言ができるよう情報収集に努め、的確な情報を提供して進路選択を助ける。⑤⑥	A		
		進路関係の行事については、学年全体に対するものと進路別・分野別のものを適切に組み合わせて行い、効果的な進路指導につなげる。⑤⑥⑦	A		
	生徒の学校生活の成果について、生徒が具体的に可視化できるように努め、それによって生徒のより一層の成長を促す。	学校生活のあらゆる場面で、ICTの利活用を通じて振り返りを積極的に行わせ、その後の生徒の活動の質が向上するよう支援する。②③⑦⑲	A		
		各種検定・課外活動・校外活動に積極的に取り組ませることにより、生徒自身が目に見える形で自身の努力を評価できるよう支援する。①⑦	B		
		日々の生活を含む生徒の活動実績を、eポートフォリオ化し、蓄積する。その際に、積極的に生徒自身の手で蓄積させるよう促すことで、生徒自身に自己の努力の跡を実感させるように努める。①③⑬⑰	A		
	教職員の服務規律遵守及び働き方改革の推進	服務規律を遵守すること、及びPDCAサイクルによる、評価・改善を行いながら働きやすい職場環境を推進し、働き方改革を意識した活動に努める。⑳	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3学年	最高学年としての自覚と責任に基づく自律的な生活を促し、社会にとって望ましい人間性の育成に努める。	教員が自ら規律を遵守する姿勢を示し、服装・頭髪等の正常化を促す指導を年間を通して継続する。 ⑧⑳	B	例年並みの通常の学校生活が難しい中であつて、多くの生徒が主体的に進路の実現に取り組めたことは大きな意味があつた。一方、ICTを使つての生徒への効果的な働きかけの部分については、研究の余地が多くあると考えられるので検討していきたい。また、働き方改革については、それぞれの教員の仕事の内容や量などが異なるため、一律に評価することが難しいが、適材適所の人員配置や仕事量の適正化をより追及する必要がある。
		挨拶を励行し、適切な敬語の使用を促して周囲との良好な関係をつくることを目指す。 ⑧⑭	A	
		学校生活全般にわたり、時間や提出期限を厳守することを徹底させる。 ⑧	B	
	主体的な学習態度を確立し、基礎学力の充実を第一に捉えた指導により進路の実現につなげる。	各自の進路に必要とされる基礎学力の定着を図る。 ①②③	B	
		資格取得を奨励し、検定試験等の積極的な受験を促す。 ⑥	A	
		課外授業に積極的に参加させ、自ら進んで学ぶ習慣を定着させる。 ④⑦	B	
		模擬試験を多角的に利用し、大学入試をはじめとする個別の進路目標に対応できる学力の定着を図る。 ⑥⑦	B	
		教職員がICT活用成果を積極的に発信し、生徒が学習を効率的・効果的に進める力を育成する。 ⑱	A	
		eポートフォリオの活用により、生徒の高校生活の成果を可視化・蓄積し、自他の適切な評価につなげる。 ③⑤	B	
	校内外の諸活動に積極的に取り組み、集団・社会における自己の在り方を学ばせる中で感謝の気持ちを育成する。	学校行事への主体的な参加を促し、協調の精神とリーダーシップを育成する。 ⑫⑬⑭	B	
		学校行事や部活動等に積極的・持続的に参加させ、学校生活の充実を図らせる。さらにその経験が個人の人格形成に資するよう意識付けする。 ⑫⑬⑭	A	
		学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組み、社会における自己のあり方を学ばせる。 ⑧⑬	A	
	将来の生き方について考えを深め、進路実現に向けて指導の充実を図る。	学年業務の評価・改善を行い、働き方を改革を進めることによって進路指導に充てる十分な余裕を確保する。さらに適切な情報を適切な時期に提供し、生徒の主体的な進路選択を援助する。 ④⑤⑥⑳	B	
		講演会や学校主催の進路行事などを通して、生徒及び保護者の進路意識の啓発に努める。 ④⑥	B	
		学年団で一致協力して積極的な情報収集を行い、「チーム」として生徒に対する効果的な進路指導の在り方を研究する。 ④⑥⑱	B	

※評価基準： A:十分達成できている。 B:達成できている。 C:概ね達成できている。 D:不十分である。 E:できていない。